

【ファシリテーターの活動状況】

第2回地域包括ケア専門職“絆”研修③終末期支援「看取りの時期」

- 日時 平成30年6月24日（日） 9：15～12：30
- 場所 東部医師会館3階研修室
- ◎ 研修参加者 53名(内多職種研修WG関係者3名)：7グループ
- ◎ 参加ファシリテーター 8名

※6/5、6/13、6/21に事前準備を行い、研修当日最終打合せ後に研修にのぞみました。

※事前準備の中でプレゼンテーションのティーチングを「双方向性講義のためのスキルチェックリスト」を利用して行います。前回までは進行デレクターを足立医師が行っていましたが、今回は山根委員が行いました



◆ファシリテーター紹介・アイスブレイキング

(阪本亜百美ファシリテーター：小規模多機能型居宅介護 木守舎 管理者)



◆後半のワーク②のプレゼンテーション

(村上志奈ファシリテーター：訪問看護ステーションおざき 看護師)



○ ファシリテーターの振り返り自己評価（一部抜粋）

1. ファシリとして良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

- ・「時間の管理」について、グループの方と共有してからワークにかかった事で、声がかげやすかった様に思う
- ・会話が広がりすぎ、内容と少し違った話で盛り上がってしまった際に、会話の方向性の修正ができたと思う

2. ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

- ・介入方法の違いによって、参加者のどのような変化があるのか知れたらいいなと思う（難しいかもしれませんが・・・）。
- ・今まで、プレゼンターなどをやってきて、外からファシリの活動を見てきた。今回、久しぶりにファシリとしてグループに入ってみたが、グループとの距離感の保ち方とか、介入のタイミングや、頻度、程度など、奥が深いなと改めて感じた。

3. 研修参加者にとって何が・どんなことが一番よかったか

- ・なかなか進行役や発表者が決まらず時間はかかったが、グループの皆さんで話し合っで決められた。その後も皆さんで進められたので、直ぐに介入せず待ったこと。
- ・経験年数、職種、すべてが異なる人であったため、個人では知りえない情報や体験を共有する事ができていた、新しい気づきの場になったと思う

4. 研修参加者にとって何が・どんなことが良くなかったか

- ・急遽の欠席により、グループにケアマネや介護士が居なくなり、看護師、理学療法士、医師、薬剤師のみのグループとなった。ケアマネや介護士などの視点が薄くな

り、医療職のみの話し合いになってしまったのが悔やまれる。

- ・発表者でない方が「まだ発表していない事がある。」と言われ、どうしようかと迷っている間に発表時間が終わってしまった。

5. 研修までの準備についての感想

- ・プレゼンの練習に皆さんがつきあって下さり、いろいろとご意見いただいたことで自分の癖とか改善点分かり、頑張ってみようと思気持ちを持ってた事が、とても自分にとっては良かった。
- ・回数を重ねるたびに進め方やアドバイスのポイントが的確になり全体のスキルが向上しているように感じました。
- ・マイクロティーチングをやらせてもらい、プレゼンターの何を見て、どのようにフィードバックするかを同時に行うことの難しさを体験しました。回数を重ねて、プレゼンターにとってより良いフィードバックができるようになりたいと思いました。

6. その他（感想・意見）

- ・5グループには、絆研修に2周フルで参加された方がおられ、その方が、研修全体の目的や、グループワークの意図などをきちんと把握されていたため、ある意味でファシリタ的な役割を内部で果たして下さったため助かった。全員が発言でき、発表も積極的にされていたため、よいグループワークになった。
- ・グループワークでの討議をもっと深めたい時の介入方法を身に着きたい。

